

## 対話での問いかけ

新学習指導要領の実施を半年後に控え、多くの高校で「探究的な学び」をどう実現するか、検討が進んでいます。どのようにして探究的なカリキュラムをつくるのか、何を検討することで良いカリキュラムがつかれるか等、下記の問いかけを基に、参加者は考えを深めました。

**カリキュラムを組む目的は何か？その目的を、校内でどう合意するか？**

**各教科や総探の時間が有限な中、どのようにカリキュラムを組むか？**

**学んだことを、他教科の授業や授業外に転用できるようにするにはどうすればよい？**

## テーマ設定 背景

これまでの対話で、探究的な学びの重要性は都度語られてきました。しかし、探究的な学びと言っても、教育現場での実践は様々です。例えば、授業でのちょっとした工夫もあれば、学校改革の核に位置付けるケースもあります。そこで今回は「探究的な学びを実現するカリキュラムのポイントは何か？何に留意すべきか？」などの問題意識を持ち寄り、対話を進めました。

## 話題提供 – 遠藤直哉先生（会津若松ザベリオ学園中学高等学校 教頭） –

- ・生徒が素敵な人生を送るための学び、すなわち思考力とか、探究とかが大切なのではないか。
- ・「知らないことを知っている」ことは極めて重要。学びが苦手な生徒は「どこがわからないか、わからない」。
- ・思考力を育むとは、具体と抽象を行き来し、概念理解できるようにすること。これが探究カリキュラムの核。
- ・教科の知識とは具体のこと。理解を目指す抽象と知識としての具体を行き来する中で、学びが進む。
- ・学校や組織で物事を進めるときも、具体と抽象でズレて進まないことが多々。目的と手段ともいえる。

## 話題提供 資料(一部。全体はこちら)

13 「知らないことを知っている」  
ことは重要

学びが苦手な生徒の特長  
どこがわからないか、わからない。

「私、どんな服が可愛いかわからない。だから、ファッションセンスないんです。」という人は、全然大丈夫！

二次関数の最大・最小値の場合分けができないんですよ～  
って生徒は、すぐにできるようになる。

77 力を付けられる先生の授業展開  
先生って、何を教えるの？

○はさあ、つまり△△ってことでしょ。  
(具体1) (抽象)

□も同じように△△になるんだよ。  
(具体2) (抽象)

さらにこれも同じでしょ。  
(具体3)

地震が怖いのはさあ、いつ起こるかわからないからでしょ。  
つまり、わからないから怖いんだよ。(具体1→抽象)

幽霊も何をしてくるかわからないから怖いんだよ。(具体2→抽象)

僕しかつじいちやんが幽霊になって出てきても、怖くないだろ！  
さらに、いじめっ子が怖いのも、いつまたいじめてくるかわからないから怖いんだよ。(具体3→抽象)

知らないことが不安に驚がるんだよ～(抽象→高次抽象)

縦の繋がりを教えることが重要！

## 対話の声

- ・各教科で、具体と抽象の扱い方が異なる。だからこそ、多様な考え方を育むことが出来ると思う。(東京)
- ・教員のスキルとは、生徒が具体を抽象化するまでの道を作ってあげる力と感じた。(福島)
- ・各教科の時間は有限。その時間以外への転用をできるようにする支援が重要ではないか。(青森)
- ・「総合的な探究の時間」だけ探究や主体性を謳っても生徒が戸惑うだけ。全体設計が大切だ。(宮城)
- ・自校の育てたい生徒像が抽象的すぎる。学校らしさを体現している生徒を元に、具体で考えたい。(京都)

本プロジェクトへの「ご参加希望」「校内での対話型研修会のご要望」等は、  
運営事務局 ベネッセ教育総合研究所 次世代の学び研究室(nextlearning@mail.benesse.co.jp)までご連絡ください。

本プロジェクトは、新型コロナウイルスの影響により全国の学校が休校せざるをえなかったことをきっかけに、有志により発足されました。プロジェクトでは、毎週行う学校教育活動に関する対話を通じて、「学校教育の革新と、生徒の気づきと学びの最大化」を目指しています。これまでに全国約80校から主に中高教員が参画しています。対話履歴はSNSでも発信しています。フォローください。[Twitter](#) [Facebook](#)

これからの学校運営はどうあるべきか？

実践学園中学・高等学校 倉田誠治

現在私は、次年度以降の探究カリキュラムのベースを策定する任務を命じられています。次年度より高校も新学習指導要領に移行するにもかかわらず、なかなかその議論に入らない現場への危機感から、自分が学内の会議で発言したことがきっかけでした。とは言うものの、どのような考え方・進め方で、本学園中高6年間・3年間の「総合学習」「総合探究」の流れをつくれればよいのか、明確なプランがある訳ではありません。先生方は協力してもらえるのだろうか、策定した計画が理事会で認められるのかと、不安の方が大きいのが現状です。

今回、「探究のカリキュラムをどうつくる」というテーマでしたが、ご登壇された遠藤先生のお考えを伺いつつ、また参加者との対話を通じて得られた「気づき」があります。遠藤先生が探究学習を重視するのは、「考える力を身につけないと幸せにはなれない」という出発点です。このことは探究学習のみならず、学校運営にもあてはまるものではないかと感じました。そして、生徒が授業において「探究学習」を通じて訓練する以上、私たち教員も考え続けなければなりません。

また、参加された全国の先生方との対話を通じた気づきとして、各学校にある建学の精神や教育理念・教育目標はある程度似通った部分があるけれど、様々なリソースが異なっている。「学校らしさ」や「うちの子らしさ」というような、その学校の生徒の気質などは独特のものがあるのだから、校内の先生方とのブレスト等を行うことによって、育てたい生徒像などが見えてくるのではないかということです。

知識伝達型の授業に対する限界から「探究学習」が重視されるようになり、生徒がこれに主体的に取り組むことは、学校の教育力をはかる重要な指標にもなります。まさに、探究学習のプログラムづくりはこれからの学校運営に通じるものと考えます。「これからの社会」で活躍する人材を育てる場の学校として、個々の教員が日々の教育活動の中でおこる事象を包括的に捉え、その中から教育の方向性を「対話」によって導き出す。不断の「思考」のトレーニングと「対話」を通じたチームワークづくりは学校運営のベースになるでしょう。

本プロジェクトへの「ご参加希望」「校内での対話型研修会のご要望」等は、運営事務局 ベネッセ教育総合研究所 次世代の学び研究室([nextlearning@mail.benesse.co.jp](mailto:nextlearning@mail.benesse.co.jp))までご連絡ください。

本プロジェクトは、新型コロナウイルスの影響により全国の学校が休校せざるをえなかったことをきっかけに、有志により発足されました。プロジェクトでは、毎週行う学校教育活動に関する対話を通じて、「学校教育の革新と、生徒の気づきと学びの最大化」を目指しています。これまでに全国約80校から主に中高教員が参画しています。対話履歴はSNSでも発信しています。フォローください。[Twitter](#) [Facebook](#)

対話を振り返って

学校法人石川高等学校 岩瀬俊介

3つの点で非常に刺激的かつ学びに満ちた時間であった。

1つは、学校改革において中心となる教員が果たす役割について。「人を動かして欲しい」と言われながらも、遠藤先生自身が率先垂範して生徒に直接指導を行っている。改革に取り組もうとする際、「改革賛成派」と「改革反対派」の二項対立に陥って孤軍奮闘する先生をよく見受けられる。しかしながら、実はその二項は明確に区切られている訳ではない。非常に多くの先生が、「改革の必要性を感じながらも、何をすればよいか分からないし自信がない」だけであることが実情である。遠藤先生が上記の中間派の先生方に見本を見せ、取り組みを共有しながら、少しずつ改革に取り組めるよう若手の先生方を育てておられた。現在新コース立ち上げに取り組んでいる私にとっては非常に参考となる姿勢であった。

2つ目に、「総合的な探究の時間」を増やすことでむしろ生徒の学力が伸びる点について。探究型の学びを通して生徒は具体を「抽象化する力」を身につけることにつながる。この「抽象化する力」こそが、生徒の学ぶ力の中心となる。抽象化を通し、一つの解法を多くの問題に応用をすることが可能となる。抽象化を通して、歴史的出来事や理科の法則の共通点に気がつくことができ、効率的に教科を習得することが可能となる。抽象化を通して「自らの学びを調整する力」を身につけることが可能となる。その結果、全体指導の時間が短くとも、学力を自ら高めることが可能となるのである。

3つ目に、既成概念にとらわれず、生徒たちの可能性をとことん引き出すことが大切である点について。「学校とはこのようなものである。」「生徒の安全を考えたら変革は取り組むべきではない。」これまでの先生が取り組んだ様々な挑戦に対して、他の先生からストップがかかったという。しかしその一つ一つが生徒の可能性をつぶしてしまっている「教育の世界の当たり前」であった。最後に味方となったのは生徒たちであった。生徒たちの成長した姿が多くの先生方への安心へとつながる。自信をもって生徒の可能性を最優先して選択をする勇気をいただいた。

私事であるが、自分と同じく公立高校から福島県内の私学に移られた先生から多くの学びをいただく時間となった。私立から福島の公教育を変えていく。県立高校にプレッシャーを与えるくらい人を集める学校作りを私も行っていこうと勇気をいただく時間となった。

本プロジェクトへの「ご参加希望」「校内での対話型研修会のご要望」等は、運営事務局 ベネッセ教育総合研究所 次世代の学び研究室([nextlearning@mail.benesse.co.jp](mailto:nextlearning@mail.benesse.co.jp))までご連絡ください。

本プロジェクトは、新型コロナウイルスの影響により全国の学校が休校せざるをえなかったことをきっかけに、有志により発足されました。プロジェクトでは、毎週行う学校教育活動に関する対話を通じて、「学校教育の革新と、生徒の気づきと学びの最大化」を目指しています。これまでに全国約80校から主に中高教員が参画しています。対話履歴はSNSでも発信しています。フォローください。[Twitter](#) [Facebook](#)